

ヨシ刈りボランティア 琵琶湖の環境保全に貢献

琵琶湖の生態系におけるヨシ(葦)の重要性と、環境保全への意識を啓発する活動として、「ヨシ刈りボランティア」を毎年実施し、12年目の開催となります。

「ヨシ」は琵琶湖の水質浄化、魚の産卵場所、水鳥の生息場所として大きな役割を果たしており、冬場に枯れたヨシを刈り取ることで新芽の生長を促す「ヨシ刈り」は、琵琶湖の「**環境保全のシンボル**」的な活動の一つとなっています。

平成21年度は、近江八幡市と草津市で実施し、両日で役

職員660名が参加する冬の一大イベントとなっています。身の丈以上に伸びた「ヨシ」を前に四苦八苦しながらも、琵琶湖の恵みに感謝し、刈り取り作業を進めました。

ココに注目!

環境ボランティアにより刈り取った「ヨシ」が、全役職員の使用する「ヨシ紙名刺」へと生まれ変わります。



高さ約4メートルのヨシを刈り、汗を流す参加者

環境会計

環境保全活動の報告の一環として、平成18年度より「環境会計」を導入し、公表しています。環境対応型金融商品の実績は堅調に推移し、環境会計にその成果が表れております。

①対象期間 平成21年4月1日～平成22年3月31日 ②対象範囲 滋賀銀行単体 ③集計方法 環境省「環境会計ガイドライン」を参考

Web 詳細はWEBをcheck

(単位: 百万円)

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	
(1) 環境保全コスト	投資額	215	134	(a) 671	49	
	費用額	132	224	380	(b) 332	
(2) 環境保全効果	環境対応型融資商品の残高	68,658	79,084	85,258	82,750	
	環境対応型融資商品による金利優遇額	319	441	384	168	
(3) 環境保全対策に伴う経済効果	収 益	環境対応型融資商品による資金利益	▲38	▲100	33	(c) 314
		エコ関連ファンド販売手数料	1	43	5	4
	費用削減	エネルギー費用の削減	13	▲35	14	32
		合 計	▲24	▲92	52	(d) 350

〈ポイント解説〉

- (a) 平成20年度の環境保全コストにおける投資額の大幅な増加は、「しがぎん浜町研修センター」の環境保全設備投資によるものです。
- (b) 環境保全コストの費用額には、環境保全設備投資による減価償却費や、低公害車、破砕機リース代金によるものが多くを占めます。
- (c) 平成21年度の環境対応型融資商品による資金利益は、資金調達原価(預金+経費)の低下により、前年比で大幅に増加しました。
- (d) 環境対応型融資商品による資金利益の増加と、エネルギー費用等の削減により、350百万円が経済効果となりました。

環境対応型金融商品の提供は、短期的な効果を求めるのではなく、長期的な目線でお客さまと継続的なリレーション(長期的な関係)を構築し、持続可能な社会を築いていくことに意義があり、それこそが地方銀行としての使命であると考えています。